

NEW環境展に出展します

N-EXPO 2017
2017 NEW 環境展

同時開催:地球温暖化防止展

5月23日(火) → 26日(金)

午前10時から午後5時まで
(最終日は午後4時まで)

東京ビッグサイト (東1~6ホール・屋外会場)

東2ホールA245でお待ちしています。



当社の出展内容

- 破砕機 2軸破砕機(破砕室のみ展示)
1軸破砕機
粗破砕機
- 選別機 振動スクリーン ビビテック(実機展示)
ハイパーセパレーター(実機展示)
ZCU(実機展示)
光学式ソーター クラリティ
Zセレクター
混合廃棄物選別装置RT
- 衛生製品 カンファ水(実機展示)

その他、多彩な展示を予定しています。
是非お越しくださいませ。

高精度選別・大量処理

ハイパーセパレーター(HCDA)

環境展に
展示します!

材料を選ばずに
効率的な選別を実現



特徴

- 幅広い種類の材料選別に適応します
- 手選別の人員削減によるコストダウンに貢献します
- 下流の選別負荷を低減します
- 既存の選別ラインへ追加設置が可能です
- 高い処理能力
- 低騒音・低振動
- 簡単なメンテナンス
- 粉塵・砂等の粒子を軽量物として選別



持続可能な高度循環型社会を創造する

本社 〒939-2744 富山県富山市婦中町地角600-1
TEL 076(465)6050 FAX 076(465)6112
関東営業所 〒332-0031 埼玉県川口市青木3丁目12番35
TEL 048(299)7800 FAX 048(299)7801

mail general@ryohshin.co.jp URL http://www.ryohshin.co.jp/

Environment SOLUTION

環境ソリューション情報通信

VOL. 2017.23



CONTENTS

Information Technology

- オーストリア リンドナー社製 一軸破砕機
ジュピター、コメット、ポラリス
- タイ国における廃棄物処理の実情

リョーシンインフォメーション

展示会お知らせ 環境ビジネスの展開

2017年 環境展
当社出展案内・展示機種紹介

異物に強い、1次破碎・2次破碎・ワンステップシュレッダー

〈オーストリア リンドナー社製〉一軸破碎機

ジュピター

コメット

ポラリス



高い耐久性と簡単メンテナンスの高性能破碎機

リンドナー社製の一軸破碎機は、異物に強く、堅牢かつ耐久性が非常に高い信頼設計の破碎機です。省エネルギーに優れたシステムを搭載し、トン当たりの破碎コストの低減を実現しています。



適応材料

- 木くず
- 一般廃棄物
- 段ボール
- タイヤ
- 粗大ごみ
- RPF材料

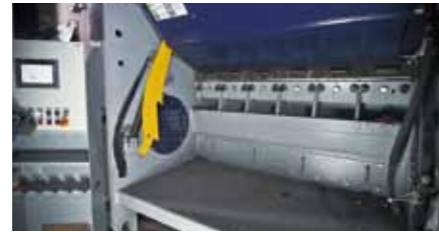
簡単&クイックな交換

刃やスクリーンは分割式の為、必要な部分のみの交換が可能。作業員1名で交換できます。



油圧式メンテナンス用フラップで停止時間最小化

ボタン1つで固定刃や回転刃へアクセスできる扉がオープン。異物が混入した際も素早く取り出すことができ、停止時間を飛躍的に短縮します。また、作業員は床面にいながら安全に作業ができます。



セーフティークラッチシステムでローターや刃へのダメージを最小限に

金属等の異物を噛み込み急停止する場合でも、高トルククラッチが働くことによりその衝撃をシャットアウトします。また、インバーターの働きにより急速ブレーキが作動します。



用途に応じた多彩なラインナップ

1次破碎、2次破碎、ワンステップ用の機種を取り揃えています。お客様の用途に合わせた最適な機種をご提案いたします。



1次破碎 ジュピター



2次破碎 コメット



ワンステップ ポラリス

タイ国における廃棄物処理の実情

リョーシンは継続可能な高度循環型社会普及の一環としてタイ国における廃棄物処理の実情を詳しく知る為、2017年4月初旬に現地にて視察を行いました。

タイでは急激な経済発展に伴いごみの排出量も急増しており、その対策が急務とされています。現在のタイの廃棄物事情はどのようになっているのでしょうか？

タイ政府は廃棄物の3R(リユース・リデュース・リサイクル)の推進に力を入れており、1992年には国家環境質向上保全法が成立しています。その後一般廃棄物や産業廃棄物の取り扱いに関する法整備は完了していますが、40年前の日本がそうであったように、廃棄物に対して投資をする、という感覚がまだ国民全体には浸透していないように思われました。

その他にタイでは再生エネルギーの導入促進政策を進めており、その政策を実施するため電力固定価格買取制度FITを導入し、民間企業からも高い関心を集めています。

都市部であるバンコクの道路は高架橋等が建設され、走っている車も6割程がトヨタ車であることから、まるで東京の道路のような整備が行き届いている印象を受けました。一方、バンコクから車で1時間程離れた場所では路肩に不法投棄されたゴミを多く見かけました。これがタイ国内でも問題となっているそうです。

また、ゴミの収集は行政によって整備され正しく行われていたましたが、地方に行くとゴミの中から缶・ペットボトル・プラスチックフィルム等の資源物を集め生計を立てる(スカベンジャー)ような人々も多く見られました。

廃棄物の処理

タイでは年間2700万トンの廃棄物が発生していますが、焼却炉の数は費用や認可の問題で国内で3カ所だけです。回収されたほとんどの家庭ゴミは埋め立て処分となりますが、その量があまりにも膨大な為に適正な処理がされていなかったり、不法投棄されているケースが多いことが課題となっています。

今回はチェンマイとチャチェンサオ(バンコクから車で約1時間)にある2ヶ所の最終処分場を訪問しました。それぞれの場所では20~30万トンと非常に多くのゴミが埋め立てられています。そして処分場には毎日およそ300トンものゴミが集められる為(1台のトラックで6トン、1日合計50台での搬入)、日量200~400トンの選別・埋立て処理が求められているそうです。

国内には2800カ所もの最終処分場が存在し、近年では周辺地域への影響、特に地下水源の汚染がにわかにクローズアップされています。その対策として、政府は全ての最終処分場の運営会社に、埋立てゴミを掘り起こし、焼却・選別・リサイクル等の適正処理をするよう指導をしています。これは新規に許可を与える時点で施設建設基準が守られなかった結果によるものだそうです。

埋立てゴミの中にはプラスチック類が多く含まれており、それらを選別洗浄することにより燃料として売却できるルートがある為、最終処分場運営会社は自らまたは第三者による掘り起こしゴミの破碎選別を一事業として計画することに目を向け始めてきています。そこにリョーシンの破碎選別装置が役立つ機会があると信じています。

観光地としての人気の高まりから急速に進んだタイの発展は、経済成長と共に廃棄物の増加とその処理という問題も同時に抱えることとなりました。

現状では対応しきれているとは思えないこの廃棄物問題の行く末を地球規模で考える必要があるのではないのでしょうか。



広大な処分場に運ばれてきた大量のゴミ



炎天下の悪臭漂う環境の中、資源物(プラスチック)を手で回収